

- 13) 島田守家, 1972: 日本における集中豪雨の三つの型について, 天気, **19**, 244-248.
- 14) 杉山清春, 1973: 梅雨前線の特徴と大雨との関係, 気象学会春季大会講演予稿集.
- 15) 高橋浩一郎, 1969: 総観気象. 岩波書店, 385 pp.
- 16) Yin, M.T., 1949: A Synoptic-aerological Study of the Onset of the Summer Monsoon over India and Burma. *J. Met.*, **6**, 394-400.
- 17) 安井春雄, 前田伊三男, 1969: 大雨に対する下層ジェットの役割, 天気, **16**, 174-180.
- 18) 安田清美, 1970: 昭和41年10月12日愛知県渥美半島付近に発生した集中豪雨に関する解析, 天気, **17**, 181-187.

〔通信欄〕

本誌に対する会員の希望

「天気」のアンケート(本誌20巻6号綴込)は毎日、会員から送られてきておりますが、とりあえず、8月20日までに到着した分のうち「本誌に対するご希望」欄に書かれた会員の声を原文のまま収録しました。編集委員会からの答えは、暫く先の号に載せることにします。まだこのほかにもご希望のある会員も多かろうと存じます。会員のご希望にそった編集をするようにしたいので、これからでも結構ですから、アンケートにお答えいただくようお願いいたします。(天気編集委員会)

ミスプリントを少なくしてもらいたい(なくしてもらいたい)。本日到着した Vol. 20 No. 6 をちよっと頁をめぐつただけでも、次の3個所に気がついた。p. 46上から16行目、収田三夫は牧田三夫ではないか。p. 46下から17行目一第関東大地震の発生…の第は?。表紙4東北支部の…の渡辺偉夫は、渡辺偉夫ではないか。(62歳)

地方は、情報に乏しいので隅から隅まで、読んでいる。バラエティに富んだ総合的情報源として満足している。多謝。(58歳)

一方に気象集誌があるのだから、天気では解説記事などうんと取入れること。そして、各面のこれから勉強する人の参考になるよう乱流でも微気象などの解析・研究をするのに役立つ基礎面の解説を望む。(56歳)

論文の中に、生気象や大気汚染を取り上げて頂きたい。ページ数も70頁位には、無理でしょうか?(55歳)

上の内容(雲物理、環境問題)を互に関連させた論文総合的な論文をたくさんのもててほしい。(54歳)

WMO活動の概要が知りたい。(54歳)

新しい外国論文の抄訳などを望みます。(50歳)

解説は読者の専門外の事項を知るのに有益であるので、なるべく、専門外の者に理解しやすいように書いて頂きたい。(49歳)

学会だよりは、天気に本印刷にしないで、謄写刷でよろしいから別で作って各機関または個人に送付したらどうですか。速報性をもたすため。ただし、経費の点で天

気に載せるより安上りでなければなりません。(48歳)

天気の発行が遅れがちなのは、編集事務主任(定年退職者を Arbeit の形で)をにおいてやればさけられるのでは?(48歳)

定期大会の論文発表はものすごく多いのに地方の会員はお目にかかれません。出席する人には有料で予稿集が行っていますので、アブストラクトの天気掲さいは必要ないと存じます。そこで、論文は学会誌にできるだけ多く印刷されてしかるべきでしょう。天気 Vol. 1 No. 1の発刊の主旨、初心に帰って考えてみませんか?。700字の短文ですが…。天気20までの文献目録を気象研究ノートにまとめて下さい。このようなアンケートが必要なものは、学会の大会が会員の意志を代表していない結果のひとつだと思いますが……。学会の理事にも大いにはんせいしていただかなくては……。 (47歳)

内容の構成が一見、雑然としているので(余白、活用といった点でやむを得ないが)編集にあたって各パート、パート纏めることもよいではないでしょうか。(47歳)

地方会員に対する啓蒙に努力をばらわられておられる様子が目に見え、敬意を表します。この傾向を今後とも継続されるよう希望します。(47歳)

今後10年—20年後の気象観測の方法、予報の出し方など現在と比較して述べていただければ幸いです。それぞれ識者の話を、特集号として、多数比較して載せればより

面白味があると思います。(46歳)

気象学会で、気象用語集(和英仏独露対応解説付)の発行を計画してほしい。(45歳)

論文をへらして解説を多くするよう希望します。(41歳)

年に2~3回、特定のテーマによる特集号を企画されては如何でしょうか?(41歳)

1) 一論文あたりのpage数が少なく、密度が薄い(解説やシンポ)。2) 事務記事(学会報告、学会講演題目)が多すぎる。(40歳)

学会の方向としては、環境問題・産業(農林水産)気象を最優先にとり組むべきであろうと思われます。(38歳)

1. 執筆者が片寄っている。もっと潜在力のある人を開発すること。2. シンポジウム等のお知らせをもう少し早めにのせる。(32歳)

天気でも各専門分野のレビューをシリーズで連載してはどうか? 内容は専門的でありたい。(30歳)

写真などは、カラーにしてはどうでしょうか。あまりにも細分化された内容のようでつまりません。何か一つの大きな課題に挑戦するような特集があるといいです。(25歳)

系統的な、連載物を望む。(24歳)

人間の気象の研究への歴史などの連載を希望する。外国の現状の気象機関体制を知りたい。(23歳)

まずこのアンケートでは、今後の編集の参考にはならないと思います。あまりにも場当り的な内容です。会員の現勢を知るにも、希望をきくにも、もう少し綿密に考えていかねばムリでしょう。(切手を自己負担させるのはなおさら。)/・現在の「天気」の誰のためでもあって誰のためでもないような中途半ばな性格、ある意味ではヤムを得ぬことでしょう。一つの方法として論文はすべて集誌の方へ回す。ただしその分は欧文にせず和文とするなどはどうでしょう。少しは“天気”が整理されます。切手を自己負担させるアンケートを出すとは、大して回

収を期待していないとしか考えられず、編集委員の意気込を疑わざるを得ない。いくら財政が苦しいといっても(23歳)

配本の遅れた場合などには、行事がすんでいたりする。地方にもはやく回らないでしょうか。(22歳)

山岳気象等の調査のやり方などものせていただけたらよいと思う。(22歳)

水収支関係のものをとりあげて下さい。(22歳)

新刊紹介を、多方面にわたり月に数冊紹介して欲しいと思う。(21歳)

初心者向けの講座のようなものをもうけてもらいたい。質疑応答だけでは不十分。(以下年齢記載なし)

AMeDASについて学会誌を通して、全国の人々に解説したらよいと思う。

気象教育に関する記事をもっとのせて欲しい(公教育の)。

異常気象現象の写真、大学・研究所・気象庁のトピックス。

内外の気象・海洋に関する技術的、行政的、政治的情勢を広範囲にキャッチしてほしい。やはり会員サイドの発想が大切。難易よりトピックスの魅力が第一ではないか。会員の多数は今迷っており、次第に離れようとしている。それをひきとめるには、新鮮なセンスで時代の流れを先どりすることだろう。

「天気」の論文も諸外国に紹介した方がよいのもある。従って、執筆者の希望に応じ簡単な、英文のレジメを付けることを許されたい。また裏表紙には、英文のContentsを付けて欲しい。論文に対する「質疑応答(discussion)」の場も欲しい。

教育問題(小学校~大学院まで)。

航空気象関係の記事も希望します。

とにかく論文を解説よりずっと多くすべきです。

6月号は6月中、遅くとも7月上旬には出版できるようにしてほしい。